

北海道の元気! NPO訪問

49 NPO法人 グラウンドワーク西神楽

文・加藤知美

住民が誇りを持てる地域環境づくりを实践 次世代に「未来あるふるさと」を継承する

◇ 豊かな土地、美しい景観は地域の財産

旭川から富良野に向かう国道二二七号線を走り、左手の旭川空港のある丘に続くなだらかな丘に、色づき始めた稲穂が実る広い水田や小麦、じゃがいもなどの畑が悠々と広がる田園地帯の景観に目を奪われた。パッチワークのような畑で観光客に人気の美瑛町と境を接する旭川市南部の西神楽地区の農家が明治時代から稲作に取り組んで形成されてきた貴重な景観だ。こうした開拓の歴史の中

で育まれた豊かな土地と景観を財産として、未来を託す子どもたちに誇れる未来ある「ふるさと」をつくりあげることが目的に活動している「NPO法人グラウンドワーク西神楽」を訪ねた。

JR西神楽駅の目の前に事務所があり、国道に面した入口には、現在受託している事業名が多数表示されている。成田一芳副理事長と成田敬事務局長に話をうかがった。一七名の理事がそれぞれ事業や活動を複数担当することで、多岐にわたる取り組みを進めているが、専従は事務局長一人だけという。受託事業を担当する理事は、毎年度事業が決まるまでは無給だったり、その後もボランティアに近い形での関わりだ。

団体名になっているグラウンドワークとは、住民、企業、行政といった多様な主体が連携し、力を合わせて豊かで継続的な地域環境づくりに取り組む手法のことである。

◇ グラウンドワーク実践の道内第一人者

グラウンドワークの手法を活用した活動は、道内では札幌、霧多布などでもみられるが、西神楽では、二〇年前に東京農工大助教授の千賀祐太郎氏や日本工業大専任講師の岩隈利輝氏（肩書

きはいずれも当時）を招いての勉強会を開催し、いち早く取り組みを開始している。北海道上川地方に縁のあった岩隈氏がグラウンドワークの手法



事務所正面。入口前の電動アシスト自転車はCO2削減のために無料で貸し出している。

づくりを实践するフィールドを探していた際に、成田事務局長は若手農業経営者が元気に活動する「西神楽農協土づくりの会」を紹介し、両氏が自腹で何度も西神楽に通って勉強会の講師をつとめ、英国のグラウンドワークトラストやドイツの農村景観保全事業などの先進事例を紹介した。やがて、回を重ねることに参加者は増え、疲弊する農村に愚痴を言うのではなく、夢を語りチャレンジしようという機運が盛り上がっていった。

そうしたなか、一九九五年に阪神・淡路大震災が発生し、千賀氏らの呼びかけをきっかけとして、被災した子どもたちの受け入れをすることとなった。地域の支援もあって被災地の児童二三名が西神楽と美瑛にホームステイした。同じ年頃の子どもがいる家庭ではわが子同様に接したこともあって子どもたちは徐々に癒えていった。後年、成人して結婚することになった一人がわざわざその報告にやって来た、というエピソードは「心のふる



住民手づくりの36ホールの
「西神楽さと川パークゴルフ場」

給するなどした結果だ。グラウンドワーク西神楽は助成金や支援の情報収集、関係機関との調整、広報などの役割を担い、地域住民の強い結束力によって実現し

た。現在は、地域住民主体の運営委員会によって運営され、交流の場となるとともに、雇用面など地域活性化をもたらし、NPOとしての自主事業の収益の柱となっている。

◇ 活動を牽引する六つの専門委員会、後継者育成が課題

現在、グラウンドワーク西神楽は六つの専門委員会会で活動している。「景観と環境を考える」、「農村の未来を考える」、「遺産と歴史を考える」、「子供の健全な未来を考える」、「NPOの事業を考える」、「さと川パークゴルフ場運営」と多岐にわたる。専門性に特化せずに、地域の課題解決に向けて必要なことは何でもやる、という意気込みだ。そうしたなかで、二〇一三年度から「高齢者お出かけサポート事業」にも着手した。社会福祉協議会や公民館と連携して、一人暮らしの高齢者に外出の機会をつくる取り組みだ。市内でも特に高齢化が進んでいる地域だけに、今後の展開に住民も注目している。

グラウンドワーク西神楽では、これまでいくつもの事業や活動を立ち上げ、住民主体の運営に移行させている。前身の活動のきつかけとなった農業青年の活動は、クリーンな農業を柱に「農業生産法人西神楽夢民村」を設立し、直売レストランを運営するに至った。また、自然観察やさと川づくりの活動から「西神楽ホタルの会」が生まれた。一方で、NPO運営のために受託事業の実施は欠かせない。事務局人件費や家賃などの固定

費を捻出するために、年間四千万〜五千万円規模の事業が必要と考え、国や自治体の委託事業を積極的に受託している。しかし、多くは年度ごとの事業であるため、安定した財源とは言えず、常勤職員の雇用は困難であることが悩みだ。事業推進の原動力となっている理事のほとんどは七〇代。地域の農業や自然環境、歴史をふまえて地域づくりに取り組み、子どもたちのために「未来あるふるさと」をつくりあげる趣旨の活動を息長く続けているだけに、地域の高齢化・少子化の課題解決をはかりながら、さらなる次世代への活動の継承がのぞま



地区の学校と連携して植物や昆虫観察などの環境教育の支援を行っている。

◆ NPO法人グラウンドワーク西神楽
所在地 旭川市西神楽南2条2丁目666
TEL 016617515305
WEB <http://www.gwnkagura.org/>